# 親子のコミュニケーション

子育てコーディネーター通信
No.8
令和７年度 発行
川西市 こども若者相談センター

親子のコミュニケーションは０歳のときから始まっています。

【赤ちゃんのころは非言語のコミュニケーション】
表情 → 視覚
口調 → 聴覚
抱っこされた感触 → 触覚

赤ちゃんはまだことばを話せないですが、上記のような方法でコミュニケーションをしています。

コミュニケーションにおいては、ことばのキャッチボールが大切です。相手によって投げ方をかえなければキャッチボールは長続きしません。ことばのキャッチボールの主体は相手だということを心がけ、受け取りやすいことばでコミュニケーションをするように意識してみましょう。

赤ちゃんの受け取りやすいボールってどんなボールでしょう。やわらかく、ゆるいボールがいいように思います。実際の場面では、赤ちゃんの目をみたり、笑顔を向けるなどして、ゆっくりと優しく明るい声で非言語のコミュニケーションを楽しみましょう。

ことばはどのように成長していくのでしょう

●「クーイング」 生後２～3か月ごろ

喉の奥をならすように「クークー」「ゴロゴロ」という音を発します。クーイングは舌を動かせるようになるため、音を作ることができるのです。しばらくすると、「アーアー」「うーうー」と泣いたり笑ったりする以外の声へと変化していきます。このころは主に母音が中心です。

●「喃語」 生後4～6 か月ごろ

「ばぶばぶ」「だだだ」など、子音と母音が組み合わさった音を繰り返し発する喃語へと変化していきます。自分の声を確認したり、自分の声を面白がって「声遊び」をするようになります。

●「初語」 １歳前後

「まんま」など意味をもったことばを発するようになる。また、ことばだけではなく、指でものを差す、表情の変化、人のまねをするなども赤ちゃんにとっては大切なコミュニケーションになっています。これらを活用し、人とのコミュニケーションがより活発になっていきます。

●単語が増え、徐々に2語文、3語文が話せるようになり、会話ができるようになっていきます。

## ことばの成長を促すための大人の関わりかた

ことばは、自分の思いを伝える大切な手段であり、ことばを用いたコミュニケーションは相手がいるからこそ成り立ちます。人は成長と共に勝手に話しができるようになる訳ではありません。赤ちゃんは、お世話をしてくれる人の声やトーン、温かさ、自分に向けられる反応などをしっかりと受け止めています。そして、人に興味がでて、もっと反応をしてほしい、もっと自分に関わってほしいという気持ちが育っていきます。このような経験を通して、自ら積極的に声を発するようになるのです。こどもの気持ちを受け止め大人がそれに応えてあげるように心がけると、ことばは広がっていくのだと思います。

**【ことばを話す前】**

・赤ちゃんの発した声に反応する
・スキンシップを図る
・おもちゃで遊ぶ
・まねっこして遊ぶ
・絵本を読む
・話しかける
・気持ちを代弁した声掛けをする

**【ことばを話すようになってから】**

・普段の生活の中で、もののなまえや大人が感じたことをことばにする
　⇒鳥が飛んでるね、車が通ったね、お魚おいしいね、お天気いいねなど
・こどものことばに、ことばを足してあげる
　⇒「バス」とこどもが言ったら、「おおきいね」「乗ってみたいね」
　⇒「ジュース」とこどもが言ったら、「ジュースを取ってほしいのね」
　　「どこにあるのかな？」、「一緒に取りに行こうか」など
・先回りをして話しをしない
・会話をさえぎらない
・言い間違いを指摘しない
・なんで？　何？　にしっかり反応し応えてあげる
・きれいだね、おいしいね、大きいね、などの形容詞を付けて話しを広げる
・こどもに話しかける
・絵本の読み聞かせをする
・手遊びをしたり、わらべ歌を歌う
・家の中だけの経験ではなく、外の世界を広げ、新たな発見につなげる

　ことばの成長には個人差があります。ことばは暗記して覚えていくものではなく、日常生活で楽しい時間を過ごしながら、ことばを獲得し、豊かな表現力を養っていきます。ことばが育つと人との関わりも楽しめるようになっていくと思います。各地域子育て支援拠点（プレイルーム）では、いろいろな友だちと関わり、さまざなま経験できる場です。ぜひご利用ください。また、子育てで悩んだ時は、子育てコーディネーターやプレイルームの支援員に話しをしてください。